

**第41回  
福島県児童・生徒木工工作コンクール  
表彰式**

開催日時 平成28年11月26日(土) 午前11時

開催場所 いわきワシントンホテル 椿山荘

**福島県木材青壮年協会**

---

# 式次第

## 表彰式

1. 開 会
2. 挨拶
3. 来賓紹介
4. 講 評
5. 表 彰
6. 祝 辞
7. 閉 会

## 記念撮影

## 出席者名簿 (敬称略)

### ご来賓

福島大学人間発達文化学類教授	新井 浩 (あらい ひろし)
福島県農林水産部林業振興課長	飯沼 隆宏 (いいぬま たかひろ)
関東森林管理局磐城森林管理署長	小林 重善 (こばやし しげよし)
いわき市農林水産部林務課主幹兼 課長補佐	蛭田 建一 (ひるた けんいち)
福島民報社いわき支社長	浅倉 哲也 (あさくら てつや)
福島県木材協同組合連合会専務理事	宗形 芳明 (むなかた よしあき)
ラジオ福島いわき支社長	矢吹 幸 (やぶき みゆき)

### 主催者

福島県木材青壮年協会長

### 受賞者

福島県知事賞	第1部	鈴木 初美 (すずき はつみ)
〃	第2部	八木 結南 (やぎ ゆうな)
福島県教育委員会教育長賞	第1部	近藤 美結 (こんどう みゆう)
〃	第2部	折内 康太郎 (おりうち こうたろう)
関東森林管理局長賞		荒木 颯太 (あらかき そうた)
いわき市長賞		和田 ほのか (わだ ほのか)
福島民報社長賞		長谷川 麻央 (はせがわ まお)
福島県木材協同組合連合会会長賞		伊藤 心 (いとう しん)
福島県林業会館理事長賞		岩崎 翔 (いわさき つばさ)
NHK 福島放送局長賞		高野 晃太郎 (たかの こうたろう)
ラジオ福島社長賞		高木 結衣 (たかぎ ゆい)
福島テレビ社長賞		松本 花 (まつもと はな)
福島県木材青壮年協会	第1部	山崎 奏音 (やまざき かのん)
福島県木材青壮年協会	第2部	渡邊 将己 (わたなべ まさき)

## 開催の趣旨

### 目的

「あれも木、これも木。どんなのつくる？」

日本人は昔から木とともに生活をしてきました。縄文時代の頃から、日本人は木の種類や性質を上手に使い分けて利用していたと言われていました。また、生活の基盤となる住宅、生活道具、工芸品などそれぞれの時代の生活文化や生活様式を代表するものの多くが木製でありました。世界最古の木造建築物である法隆寺や、世界最大の木造建築物である東大寺大仏殿は有名なところです。

また現在でも、木は生活の中に浸透しています。温もりの感じる木の家や家具、木製品はもちろんのこと、アロマオイルや芳香剤などリラクゼーション関連の商品としても木は活用されています。

このように、木は過去から現在まで時代とともに進化しながら、様々な用途で利用されています。さらに、今後も、自然素材として、また再生可能資源として将来的にも活用が期待されています。未来を担う多くの子供たちが、今の子供ならではの発想力から、昔の子供が思いつかなかった新しい物を作って欲しいという思いと、木工工作を通じて感受性や創造性に富んだ社会人に成長してくれることを願ってこのコンクールを開催します。

### 主催等

- ◇ 主 催 ◇ 福島県木材青壮年協会・福島民報社・福島県木材協同組合連合会
- ◇ 後 援 ◇ 福島県・福島県教育委員会・関東森林管理局・いわき市・  
福島県林業会館・NHK福島放送局・ラジオ福島・福島テレビ

### 応募資格

- (1) 福島県内の小中学校の児童・生徒であること。
- (2) 木材及び林産物を主材料として利用・加工した創作品で、作品の大きさは一辺の大きさが75 cmを越えないもの。

### 審査基準

- |                            | 配点 (100点) |
|----------------------------|-----------|
| (1) 子どもの頭で考え、子どもの手で作ったもの。  | 30点       |
| (2) 木の持ち味を活かし、独創性に優れていること。 | 30点       |
| (3) 機能、デザインが優秀であること。       | 20点       |
| (4) 工作技術が優秀であること。          | 20点       |

## 経過説明

### 審査内容

1. 出展作品数 総数541点(22校)  
うち、各校より推薦のあった63点について審査した。
2. 審査会 平成28年9月16日いわき・ら・ら・ミュウにおいて次の審査委員により「入賞者名簿」のとおり各賞が決定された。

#### ◇審査委員長◇

福島大学人間発達文化学類教授

(敬称略)

新井 浩

#### ◇審査委員◇

関東森林管理局磐城森林管理署長  
福島県林業振興課主任主査  
福島県教育庁義務教育課指導主事  
いわき市林務課主幹兼課長補佐  
福島民報社いわき支社長  
ラジオ福島いわき支社長  
福島県木材協同組合連合会専務理事  
福島県木材青壮年協会会長

小林 重善  
高橋 宏成  
石沢 泰蔵  
蛭田 建一  
浅倉 哲也  
矢吹 幸  
宗形 芳明  
荒川 敦郎



### その他

#### 3. 全国コンクールへの参加

上位入賞作品については、平成29年2月開催の全国コンクールに出展し、さらに入賞した作品については、6月17日大阪で開催される日本木材青壮年団体連合会全国会員大会会場において表彰される。

#### 4. 作品の展示及び展示期間

平成28年9月17日(土)～9月18日(日)

於：いわき・ら・ら・ミュウ 2階 会議室

## 講 評

第41回福島県児童・生徒木工工作コンクール審査委員長  
福島大学人間発達文化学類教授  
新 井 浩

第41回福島県児童生徒木工工作コンクールの審査は9月16日、いわき・ら・ら・ミ  
ュウで行われました。その感想と講評をおこないます。

会場に入ると皆さんの作品がすぐに目に飛び込んできました。今年作品数は例年より少  
なめ感じ、まとまった作品が多いかなと思えました。出品点数の報告から、今年はいくつ  
かの地域で出品校が減り、それで作品の傾向が似た方向になったものと考えました。

ところが、一点一点丁寧にしてみると、例年以上に新しい提案と創意工夫がある作品が多  
いことに気付きました。どんな状況であっても自分で考え自分で切り拓いていく子どもの姿  
がそこにあることは幸いです。

はじめに審査基準の確認をおこなって、審査員全員で意見を出し合い受賞作品を決めてい  
きました。

第1部の最優秀賞に選ばれた鈴木初美さんの〈たんぼぼ発見〉は、カンナクズをタンポポ  
の花一枚一枚、葉っぱ一枚一枚に見立ててつなぎ合わせた作品です。大胆な発想と作品制作  
の積み重ねから来る迫力が見事で、審査員一同で知事賞にふさわしい作品として評価しまし  
た。

第2部の最優秀賞に選ばれた八木結南さんの〈小鳥のために〉は、一見するとマツボック  
リや流木が無造作に積まれているように見えますが、よく見るとひな鳥のいる巣や、それを  
包み込むような大きな親鳥が表現されていました。マツボックリは鳥の羽毛の模様だったの  
です。表現といい、見立ての工夫といい圧巻で見事な作品でした。

続いて優秀賞に選ばれた各作品について講評します。

近藤美結さんの〈ぼくたちだっつつかい方しだいでりっぱながっきだよ〉は、余分に出た  
木の端材を組み合わせて、いろいろな表情の顔を造った楽器の作品です。現代に必要なエコ  
ロジーの発想をもとに、それを楽しげな楽器に造り上げたところはとても素晴らしいと思  
います。

折内康太郎さんの〈漁をする船〉は自然木のかたちを整え、素朴に磨き上げ漁船を造った  
作品です。評価基準と照らして教育長賞に選ばれましたが、ぬくもりのある手仕事の感じや  
存在感のあるまとまり方などが好評でした。学んだ技術をぜひ次回にも活かして欲しいと思  
います。

荒木颯太さんの〈収納つき本立て〉は工作の技術が丁寧でしっかりとした仕上がりとなっ  
ていました。全体がしっかりとした板材で作られ、背面は三本の繊細な横棒を渡したところ  
がよいアクセントになっています。

和田ほのかさんの〈豊かな森の仲間たち〉は木の実や小枝で森や動物のたくさんいる牧場  
の情景を表した作品で、自分もこの情景の中に入りたくくなるような素敵な作品でした。よい  
空気を感じることができました。

はせがわまお  
長谷川麻央さんの〈自然写真たて〉は写真を飾るための飾り棚です。この飾り棚を見て、あらためて写真は単なる記録ではなく、子どもたちにとって思い出の詰まった大切な宝物であると感じました。

いとうしん  
伊藤 心くんの〈かたつむり〉はマツボックリでカタツムリの殻を、流木で胴を、ドンダで眼を造った作品です。素材を思いがけない見立てで表したことがとても新鮮で、楽しい作品になっていました。

いわさきつばさ  
岩崎 翔くんの〈りゅうぼくまぐねっ〉はメモを止めるマグネットを流木によってデザインした作品です。流木がカラフルな魚たちに変身し、生活が楽しくなるような発想でした。

たかのこうたろう  
高野晃太郎さんの〈森の夢〉はツリーハウスを渦巻くように組み上げた作品です。枝の切り方やそろえ方が丁寧で手が込んでいて、たいへん迫力があっていいとおもいます。

たかぎゆい  
高木結衣さんの〈バーベキューのいす〉は自分の生活から発想した作品です。独創性というものの出発点を考える上でとても参考になる作品で、特に自分が必要と思ったベンチの脇の小物類を素直に造った点がとても評価出来ると思います。

まつもと はな  
松本 花さんの〈ゆかいな町に行こう！！〉は引き出しの上に建物と広場を造って町を表した作品で、柔らかな色合いによって見ている人も楽しくなる作品でした。

やまさきかのん  
山崎奏音さんの〈未来のクルマ〉は大小の木切れでクルマを造った作品で、〈未来の〜〉と名付けたのは木で造られているという意味なのかなと思いつきながら見ていました。前後はガッシリとした板で、ドアは薄く軽やかな板で、また座席は柔らかくそうに見えて、工夫が感じられました。

わたなべまさき  
渡邊将己さんの〈気まぐれガシャポン〉はこれもまた自分の欲しい物、楽しいと思ったものをつくるという姿勢に新鮮な独創性を感じました。自分の造りたい物なら、いくらだって手をかけるのが苦にはならないと思います。物事に取り組むためのひとつの考え方だろうと思います。

全体講評に移ります。

一つめは創造性に関してお話しします。日本では人と木の関係は長く密接で、木の性質から木の活かし方まで、すでに数多く試されています。そう考えると、このコンクールで子どもたちの作品から目新しい発見が出てくるというのはたいへん珍しいことかも知れません。

にもかかわらず、思いがけない子どもたちの思い付きを目にして、ハッとすることが多いのはなぜでしょうか。きっと木にも様々な樹種や形や状態があるのと同じように、子どもたちにも様々な憧れや希望があって、それらが関係しあって、大人の常識を破ってくれるからだと思います。それは日頃見慣れた景色でも彩りが変わったり、日頃見慣れた景色を映す光の方向が変わって、とても新鮮に見えるのと同じように思います。

二つめは技能技術に関してお話しします。木や道具の扱いは技術ですから型があって、その型を大人から子どもに伝え、活用出来るようにすることが重要です。ところがここで考えてほしいことかがあります。

多くの保護者のみなさんには関心の薄いことですが、学校現場では技能や技術も、型そのものを教え込むのではなく工夫して用いることを大切にしています。素材や道具や表したい気持ちに応じて工夫すること、創造的に技能を活用して表現すること、それらを大切なもの

---

としています。

ではなぜこのような取り組みなのでしょう。伝承される技能技術は始めから正しいとされ伝えられます。一方、技能技術を工夫して用いる体験はいつも子どもたち自身の内面から発せられます。正しいとされる技能を盲目的に身につけるのではなく、子どもたちの内面から発することによってなぜそれが正しいのか、合理的なのかを自らの体験を通して理解することにつながります。場合によってはもっと正しく合理的で新しい技能を探求したり、探求してみようとする態度につながります。これからの世の中は移り変わりが激しく、そうした資質が求められているのです。

私はこの木工工作コンクールにはそうした未来を切り開く力、可能性がぎっしりと詰まっているように思います。是非来年も思い切り造った作品を出品しましょう。楽しみにしています。



# 入賞者名簿

(敬称略)

## 最優秀賞

### 福島県知事賞 1部

たんぽぽ発見

いわき市立赤井小学校 4年 鈴木 初美

### 福島県知事賞 2部

子鳥のために

いわき市立勿来第一小学校 5年 八木 結南

## 優秀賞

### 福島県教育委員会教育長賞1部

ぼくたちだっつつかい方しだい  
でりっぱながっきだよ

いわき市立中央台東小学校 3年 近藤 美結

### 福島県教育委員会教育長賞2部

漁をする船

いわき市立郷ヶ丘小学校 5年 折内 康太郎

### 関東森林管理局長賞

収納つき本立て

いわき市立好間第一小学校 6年 荒木 颯太

### いわき市長賞

豊かな森の仲間たち

いわき市立中央台東小学校 6年 和田 ほのか

### 福島民報社長賞

自然写真たて

いわき市立小名浜第一小学校 4年 長谷川 麻央

### 福島県木材協同組合連合会長賞

かたつむり

福島市立野田小学校 2年 伊藤 心

### 福島県林業会館理事長賞

りゅうぼくまぐねっと

いわき市立好間第一小学校 1年 岩崎 翔

### NHK福島放送局長賞

森の夢

いわき市立勿来第一小学校 5年 高野 晃太郎

### ラジオ福島社長賞

バーベキューのいす

いわき市立大野第二小学校 3年 高木 結衣

### 福島テレビ社長賞

ゆかいな町に行こう!!

いわき市立平第五小学校 6年 松本 花

### 福島県木材青壮年協会賞1部

未来のクルマ

いわき市立泉北小学校 2年 山崎 奏音

### 福島県木材青壮年協会賞2部

気まぐれガシャポン

いわき市立勿来第二小学校 6年 渡邊 将己

## 入選

### 福島県木材青壮年協会賞

木のある空間～家～

福島市立野田小学校 6年 内藤 太郎

お昼ごはんだ!いただきます

いわき市立赤井小学校 4年 鈴木 琴美

キリン

いわき市立赤井小学校 5年 佐藤 遥花

ソフトボール

いわき市立上遠野小学校 6年 栗須 光希

飛び込むイルカ

いわき市立平第一小学校 5年 馬目 幹太

海へのいす

いわき市立平第四小学校 4年 宗像 温大

森のおくの家

いわき市立平第五小学校 3年 鈴木 咲桜

銀色の龍

いわき市立平第五小学校 4年 加藤 雄基

怪獣

いわき市立御厩小学校 6年 野木 和周

T・A・K・A

いわき市立小名浜第二小学校 6年 佐藤 陽太

まっくろくろすけ

いわき市立勿来第二小学校 2年 坂本 大悟

☆☆☆第41回福島県児童・生徒木工工作コンクール入賞作品☆☆☆

(敬称略)

最優秀賞

福島県知事賞



「たんぽぽ発見」  
いわき市立赤井小学校  
4年 鈴木 初美



「子鳥のために」  
いわき市立勿来第一小学校  
5年 八木 結南

優秀賞

福島県教育委員会教育長賞

関東森林管理局長賞



「ぼくたちだってつかい方  
しだいでりっぱながつきだよ」  
いわき市立中央台東小学校  
3年 近藤 美結



「漁をする船」  
いわき市立郷ヶ丘小学校  
5年 折内 康太郎



「収納つき本立て」  
いわき市立好間第一小学校  
6年 荒木 颯太

いわき市長賞

福島民報社長賞

福島県木連会長賞



「豊かな森の仲間たち」  
いわき市立中央台東小学校  
6年 和田 ほのか



「自然写真たて」  
いわき市立小名浜第一小学校  
4年 長谷川 麻央



「かたつむり」  
福島市立野田小学校  
2年 伊藤 心

福島県林業会館理事長賞



「りゅうぼくまぐねつと」  
いわき市立好間第一小学校  
1年 岩崎 翔

NHK福島放送局長賞



「森の夢」  
いわき市立勿来第一小学校  
5年 高野 晃太郎

ラジオ福島社長賞



「バーベキューのいす」  
いわき市立大野第二小学校  
3年 高木 結衣

福島テレビ社長賞



「ゆかいな町に行こう!!」  
いわき市立平第五小学校  
6年 松本 花

福島県木材青壮年協会賞



「未来のクルマ」  
いわき市立泉北小学校  
2年 山崎 奏音



「気まぐれガシャポン」  
いわき市立勿来第二小学校  
6年 渡邊 将己